

センター便り



浅香山病院の薬剤師業務の変遷

副院長・薬剤部長 みやもと まさひこ 宮本 雅彦

病院薬剤師として働き、40年余りが経過しました。その間病院薬剤師の役割や業務も大きく変化してきました。今回は、医療情勢の変化に順応してきた当院薬剤師の業務変化について時系列で、ご紹介したいと思います。

医薬品調剤一辺倒の時代

1980年初頭までは、当院でも内服・外用・注射剤の調剤一辺倒の時代でした。医師が作成した処方箋に基づく調剤に限られており、処方内容の確認や薬の正確な調製、薬剤供給や在庫管理が主な役割でした。患者様との直接的な関わりはほとんどなく、病棟への薬剤供給や薬剤調製に従事するのみであったことから、薬物療法の適正使用や副作用管理への介入は求められていませんでした。また、医師主導の医療体制のもとで薬剤師は診療補助的な立場にとどまり、医療チームへの参画機会も限られていたため、薬剤師の専門知識が医療現場で十分に活用されず、患者様の服薬状況や治療成績に直接影響を与えることも少なかったように思います。私も朝から夜まで調剤業務に従事していました。



患者様への服薬サポート（服薬指導業務）

1992年からは、整形外科・泌尿器科の服薬指導業務を開始し、1994年より内科、1997年には小児科・外科へと拡大し、一般科全科で業務を行いました。精神科については、2000年より開始しました。この10年余りの間に、薬剤師の業務も大きく変わり、調剤中心から患者対応へと広がり、薬剤師は患者様に対して薬剤の使用方法や副作用、投与スケジュールに関する説明を担うようになり、特に入院患者様の多剤併用に伴う副作用や薬物相互作用への対応が求められました。病院内での服薬指導は、患者様の不安や疑問の解消につながったと考えます。これにより、薬剤師の存在感は高まり、単なる調剤業務から「患者ケアの担い手」への役割転換が進みました。患者様の理解度を高めることで服薬アドヒアランスが向上し、治療効果の最大化と副作用リスクの低減が図られるようになったことは、薬剤師が医療現場で果たす役割の重要性を示す大きな進展となりました。私自身もこの間に内科から始まり外科・泌尿器科・小児科と服

薬指導業務に取り組み、精神科については、他の施設で実施していなかった時期より精神科病棟に入り、患者様への服薬サポートに手探り状態で奮闘していたのを思い出します。

病棟における病院薬剤師の活躍

2000年には一般科の院外処方箋発行、2003年には精神科の院外処方箋発行が行われ、薬剤部にとって大きな転換期となり、病院薬剤師の業務は病棟業務だけでなくチーム医療への参画と更に大きく広がりました。これにより、薬剤師は医師や看護師、他の医療職種と連携し、患者様ごとの治療計画に積極的に関与するようになりました。特に入院患者様への薬剤管理では、服薬歴の確認、副作用モニタリング、薬物相互作用が重要視され、薬剤師が早期に介入することで薬物療法の安全性と有効性の向上が図られました。病棟での活動は、患者様との面談を通じた服薬指導を実施し、患者様が退院後も継続して治療を受けられるよう支援することに加え、患者様の心理的な不安軽減にも寄与しました。

電子カルテ導入がもたらしたこと

電子カルテ導入は、2013年に一般科より、2015年には精神科へと拡大し運用することで薬剤師の業務も劇的に大きく変わりました。処方オーダーにおける処方鑑査を検査データやバイタルサインとあらゆる情報をもとに確認し、医療安全の観点から精度の高い処方鑑査が可能となりました。また、病棟業務においても同様に電子カルテの活用は、質の高い薬剤師職能を発揮する手段となりました。電子カルテにより本来の意味での「薬物療法の専門家」として薬剤師の専門性を発揮する場として確立され、患者様の治療成績向上に直結する重要な業務領域となりました。専門的な薬物療法に関する助言を医師に提供する機会が増え、治療計画の策定や副作用対策に深く関与することで、当院における薬剤師のモチベーション向上につながりました。

現在の薬剤師業務と未来の病院薬剤師

抗がん剤・抗菌薬の適正使用支援チーム（AST）・緩和ケア、栄養サポート（NST）・褥瘡・CKD教室・精神科心理教室・抗精神病薬適正使用・医療安全・感染対策（ICT）などへ参加し、多職種と協働して薬剤師の職能を発揮する場面が増えました。また、医療の複雑化と高齢化社会の進展に伴い、病院薬剤師の役割はさらに高度化し、多施設連携や医師との緊密な協働が不可

欠となってきました。今後は、多施設との情報共有や連携の強化など病院外への業務の広がりが予想され、薬物療法のスペシャリストとしての役割が一層重要視されると考えます。

回想と懸念

40年の間には、業務の変化とともに診療報酬の変化、施設の変化（新病棟）、薬剤の変化、薬剤師数の変化と様々な変化に対して「変化を恐れない」「変化を受け入れる」「変化を楽しむ」という姿勢で、その都度変化に対応し判断してきたように感じます。これからも皆様のご協力とご指導をお願いしたいと思います。

現在は、病院薬剤師になりたいという薬学生が、全学生総数の10%程度であることが、将来の大きな心配事です。私は4年制でしたが、今は6年制であり医師と同様の期間での履修カリキュラムです。薬物療法学・薬物動態学・病理学・予防学・感染学・遺伝子学と私の時代では無かった学問を勉強しています。この6年間の知識スキルを最大限発揮できる職種は、病院薬剤師しかないと思っています。勉強に励み、苦勞して取得した薬剤師免許を医療の最前線である病院で活かしてもらえないのが非常に残念です。

当院における臨床治験について

最後になりましたが、臨床治験についてご紹介します。浅香山病院では、精神科領域の新薬開発における臨床試験を主に行っています。1998年より新GCPにおける臨床試験体制を確立し受入を実施してきました。その後、2005年より谷口精神科院長を中心として、統合失調症・うつ病関連・認知症・不眠症などの精神科疾患の中心的治療薬のほとんどの臨床治験を当院で行いました。また他院では実施不可能な臨床試験も当院で受入してきました。早く新薬を臨床の現場で活用できるようにすることで、患者様や社会に対して大いに貢献してきたと思います。



浅香山病院におけるサブスペシャリティ

一般科専門・認定看護師について

看護部 主任 森本 亜希子
もりもと あきこ

【専門看護師とは】

専門看護師とは、看護系大学院の修士課程を修了し日本看護系大学協議会が定める専門看護師教育課程基準の所定単位を取得し、専門看護師認定審査に合格した者とされています。（14の専門分野）

以下6つの役割を果たします。保健・医療・福祉の発展に貢献し、看護学の向上を図るため、全て個人、家族、集団に対して、

1. 卓越した看護を実践する。（実践）
2. コンサルテーションを行う。（相談）
3. 必要なケアが円滑に行われるために、コーディネーションを行う。（調整）
4. 権利を守るために倫理的な問題や葛藤の解決を図る。（倫理調整）
5. ケア向上のため教育的役割を果たす。（教育）
6. 実践の場における研究活動を行う。（研究）

【認定看護師とは】

認定看護師とは、実務経験5年以上（うち3年は認定分野）した後、認定看護師教育機関に入学し研修（600時間以上）を修了し、認定看護師審査に合格した者とされています。（21の分野）

以下の3つの役割を果たします。全て個人、家族、集団に対して、

1. 熟練した看護技術及び知識を用いて水準の高い看護を実践する。（実践）
2. 看護実践を通して看護職に対し指導を行う。（指導）
3. コンサルテーションを行う。（相談）

認定看護師は現在移行期であり、2020年度から21分野から統合した19分野でB過程の資格により特定行為が行えるようになっています。

専門看護師、認定看護師共に5年毎に更新審査があります。

【浅香山病院の一般科専門・認定看護師】

当院では2名の専門看護師、6名の認定看護師が在籍していますので紹介します。

専門看護師

氏名	部署	職位	備考
金崎 美奈子	感染管理室	師長	感染症看護
佐々木 真由美	感染管理室	主任	感染症看護

認定看護師

氏 名	部 署	職 位	備 考
平井 恵子	救急・外来検査		救急看護
山本 朝美	看護部		認知症看護
三好 豊子	看護部		認知症看護
川崎 典子	看護部		がん化学療法看護
川崎 恵理子	中央材料室・手術室	師長	手術看護
森本 亜希子	救急・外来検査	主任	皮膚・排泄ケア

私の皮膚・排泄ケア認定看護師の資格取得の動機は、就職し外科病棟に配属となり、先輩方が人工肛門（ストーマ）ケアに難渋され、患者様の精神状態が不安定になり不安を抱えている所を目の当たりにしたことです。少しでも苦痛を和らげることが出来る専門的なことを極める看護師になりたいと思いました。現在褥瘡対策委員会に参画し、褥瘡0を目標に活動しています。

また、月2回のストーマ外来では退院後地域社会に戻り、苦痛を取り除き尊厳を保ちQOL向上に向けてケアを実践し支えています。

他の専門・認定看護師も、院内外で各分野に特化した管理や技術の実践、コンサルテーションを行っています。自分の興味のある分野のスキルアップを目指す方は是非取得を考えて頂ければと思います。

認定薬剤師について

薬剤部 室長 梶 久仁子

本稿では薬剤師の認定制度についてお話ししたいと思います。薬剤師は薬剤師国家資格を取得後、専門的知識を身に付けるための認定薬剤師・専門薬剤師制度があります。今回の投稿をきっかけに調べてみると、30以上の学会から少なくとも50種類を超える認定薬剤師・専門薬剤師制度が存在しました。私たち病院薬剤師が所属している日本病院薬剤師会では、感染・精神・がん・妊婦授乳婦・HIVの認定薬剤師制度があり、他学会では腎臓・緩和・糖尿病などの認定制度があります。基本的には5年間の実務経験が必要とされ、この5年間で研修会や学会に参加・単位を取得し、症例を集め学会発表を行い試験に挑戦します。最短で入職5年後には認定資格を取得し認定薬剤師になることは可能ですが、これは容易なことではありません。なぜなら入職後は院内の調剤規則、採用されている薬剤とその薬剤の用法・用量を覚え、抗菌薬・抗がん剤・糖尿病薬・精神科薬等のあらゆる薬剤の知識を幅広く勉強する必要があるため、認定の勉強にまで手が回りません。また次々と新薬が発売されるため治療ガイドラインが変更となり日々アップデートが必要になります。薬剤部では入職2年目から病棟担当となり、薬剤管理

指導業務を通して外科・消化器内科・循環器内科・精神科など様々な診療科を経験し自分が勉強したい分野を探してもらいます。認定薬剤師になるには多くの時間と労力が必要とされるため、強制はせず自主性に任せています。資格を取りたいと手を上げてくれれば、症例が集まる病棟へ優先的に配置し、学会や研修会に参加できるよう支援しています。多くの認定制度の中から自分の興味のある得意分野を見つけ認定薬剤師となり、その専門性を活かしてチーム医療で薬剤師の力を存分に発揮してもらいたいと考えます。また頼りにされれば業務に対するモチベーションも上がり、さらに様々な分野の認定薬剤師が集まれば頼もしい薬剤部が出来上がると思います。現実的には難しい面も多いですが一人でも多くの薬剤師が認定薬剤師になることを期待しています。

当院の認定薬剤師を下記の表に示します。AST、緩和ケア、NSTなどチーム医療の現場でその力を発揮しています。薬剤のことでわからないことがあればぜひ相談をしてください。

認定学会	認定資格	氏 名
日本化学療法学会	抗菌化学療法認定薬剤師	伊野・米丘
日本病院薬剤師会	精神科薬物療法認定薬剤師	梶
日本病院薬剤師会	病院薬学認定薬剤師	梶
日本緩和医療薬学会	緩和薬物療法認定薬剤師	梶
日本栄養治療学会	栄養サポートチーム専門療法士	梶・伊野・長井・亀永
日本薬剤師研修センター	認定実務実習指導薬剤師	宮本・梶・上田・伊野・西山

浅香山病院 学会・研究会発表等

(2025年1月～2025年3月実績)

■学会・研究会

	種類	発表(演題)名	発表者名	所属	会 名	発表年月日
1	学会・研究会 発表	BNPガイドライン改訂から考える心不全予防の地域連携	田村 聡一郎	内	ARNI New Year Symposium	2025/1/16
2		大・長内転筋スバズムに対して治療を行い受傷前の杖歩行獲得に至った左大腿骨頸部骨折 術後の症例について	井口 颯	リ	一般社団法人大阪府理学療法士会 生涯学習センター南支部 第5回南支部新人症例発表会	2025/2/9
3		腸管穿孔術後、せん妄症状の患者に対し、NSTや他職種介入により経口摂取、精神状態改善の一助となりえた一例	濱野 一起	栄	第40回 日本栄養治療学会学術集会	2025/2/14
4		「死にかけること」を持ち込む患者との精神分析的な心理療法	山岸 礼門	心	日本ワークディスカッション研究会第3回大会	2025/2/24
5		「活発なBPSD症状を伴う入所者の対応」 ～これからの老健看護師に求められるもの～	櫻元 美和	介み	第25回 大老協懇話会	2025/3/7
6		透析患者のフレイル有症率と関連する影響因子の検討	和田 直也	リ	第15回日本腎臓リハビリテーション学会学術大会	2025/3/16
7	講演・講師・座長	アルツハイマー病の疾患修飾薬の投与の実施状況について	釜江 和恵	精	令和6年度堺市サポート医会議	2025/1/27
8		災害支援の活動	甲斐 あゆみ	看	公益社団法人大阪府看護協会堺支部「災害支援ナースとしての実践報告会」	2025/1/28
9		看護計画立案	三好 豊子	看	大阪府社会福祉事業団「令和6年度 堺市看護職員認知症対応力向上研修」	2025/1/29
10		認知症の精神症状とその対応	釜江 和恵	精	神戸総合診療・家庭医療カンファレンス	2025/2/1
11		エキスパートに学ぶ!認知症診療・ケアの勘どころ	山本 朝美	看	医療法人川崎病院「第2回神戸総合診療・家庭医療カンファレンス」	2025/2/1
12		対応が難しい長期入院患者の退院支援に関する取り組みについて	島津 聖子	看	医療法人美善和会オレンジホスピタル「長期入院者の地域移行の研修会」	2025/2/5
13		臨床心理士としてのこれまでの道のり	上山 真弓	心	大阪府臨床心理師会医療保健部会主催 新人研修会2024	2025/2/7
14		「権利擁護」と「現場」の葛藤～こっぴてどうなんだろう?～	島津 聖子	看	医療法人社団澄鈴会箕面神経サナトリウム「長期入院者の地域移行の研修会」	2025/2/14
15		レビー小体型認知症の診断後支援	釜江 和恵	精	令和6年度熊本県認知症 初期集中支援チーム研修会	2025/2/19
16		「虐待通報をめぐって」～病棟における虐待通報の現状～	島津 聖子	看	一般社団法人日本精神科看護協会 京都府支部「倫理研修会」	2025/2/22
17		高齢者の発達障害	釜江 和恵	精	令和6年度大分県地域包括支援センター研修会	2025/2/26
18		臨床工学技士の立場としての「血液透析患者の歩行を守る」ための取り組み	神野 卓也	工	第15回腎臓リハビリテーション学会	2025/3/15
19		ロコモティブシンドロームについて	加藤 航太	リ	大阪介護老人保健施設協会主催 堺・泉州ブロック担当介護予防教室	2025/3/22
20		オーラルフレイルについて	上野 雅広	リ	大阪介護老人保健施設協会主催 堺・泉州ブロック担当介護予防教室	2025/3/22
21		神経・生心理学	正木 慶大	精	神戸女子大学 心理学部	1 回
22		精神医学	正木 慶大	精	大阪医専 言語聴覚療学科	6 回
23		精神医学	嶋 健作	精	大阪医専	5 回
24		行動制限最小化をすすめることで生じる疑問や悩み、日々の葛藤について	齋藤 雄一(ファシリテーター)	看	一般社団法人日本精神科看護協会 大阪府支部「行動制限最小化看護研修会」	2025/1/25
25		グループワークによる事例検討および全体発表	島津 聖子(ファシリテーター)	看	大阪府訪問看護ステーション協会「精神科訪問看護研修会」	2025/2/2
26		心理職を続けるための先輩方の工夫と知恵／臨床のOSをアップデートしよう	中山 愛梨(ファシリテーター)	心	大阪府臨床心理師会医療保健部会主催 新人研修会2024	2025/2/7 2025/2/14
27		ワークディスカッションの体験者から実践者になること	上山 真弓	心	日本ワークディスカッション研究会第3回大会	2025/2/24
28		入院者訪問支援員の役割に関する考え方 他	島津 聖子(ファシリテーター)	看	福岡県精神保健福祉センター「令和6年度第2回入院者訪問支援員養成研修」	2025/3/8

■論文・著書

	論文・著書名	著者(全員)	所属	誌名、巻：ページ、年
1	若年発症で脳梁の菲薄化を認め、著明な前頭葉症状やパーキンソニズムを呈した兄弟症例	中山 愛梨、竹田 佳世、繁信 和恵、 櫻林 哲雄、森 康治、池田 学	心	神経心理学、40(4)：322-331, 2024
2	老年精神医療の臨床倫理と法 認知症初期集中支援チームの活動のリスクと法的・倫理的課題	柏木 一恵、繁信 和恵	心 精	老年精神医学雑誌、36(1)：35-41, 2025
3	認知症看護認定看護師による入院時のアセスメントが早期改善、早期退院のカギ	三好 豊子	看	看護、77-3:32-34, 2025

※一部期間外のものが含まれています

■主催講演会

	講演会・勉強会名	演題名	講師名	開催年月日
1	浅香山病院精神科リレーションセンター会議 第58回講演会	生きづらさを支援する 自殺企図や自傷行為のある方への 理解と支援について	林 良太(関西医科大学)	2025/1/11
2	CKD(慢性腎臓病)教室	CKDにおける食事療法の基本	高橋 果奈	2025/2/1
3	CKD(慢性腎臓病)教室	薬との上手な付き合い方	大壁 和輝	2025/3/1
4	第24回 浅香山健康セミナー	泌尿器科疾患・治療についてー浅香山病院泌尿器科の挑戦ー	島田 久生	2025/3/8
5	第13回浅香山精神科研究会	講演1:「双極性障害患者のリカバリーについて考える-アリピラ ゾール水和物持続性注射剤(LAI)患者アンケートからみ えてきたこと 講演2:「身体科病院での神経因性食思不振症 症例に対する 診療の現状と課題」	講演1:松本 均彦、松浦 啓太(ねや川サナトリウム) 講義2: 碓井 太雄(宇治徳洲会病院)	2025/3/8
6	第10回浅香山病院緩和ケア研修会	「立ち止まり物語る倫理のススメ」ー意思決定支援から共同ヘー	金城 隆展(琉球大学病院)	2025/3/15
7	第47回Fmθ研究会	一般演題10題、CurrentTopic1題	江藤 光弘ら	2025/3/22

■研修医による学会・研修会発表

	発表(演題)名	発表者名	会名	発表年月日
1	血栓症の治療と原因検索に難渋した一例	長山 透流	第72回プライマリ・ケア合同カンファレンス	2025/3/6

所属:内(内科)、精(精神科)、リ(リハビリテーション部)、栄(栄養科)、心(臨床心理室)、介み(介護老人保健施設みあ・カーさ)、看(看護部)、工(透析臨床工学室)